

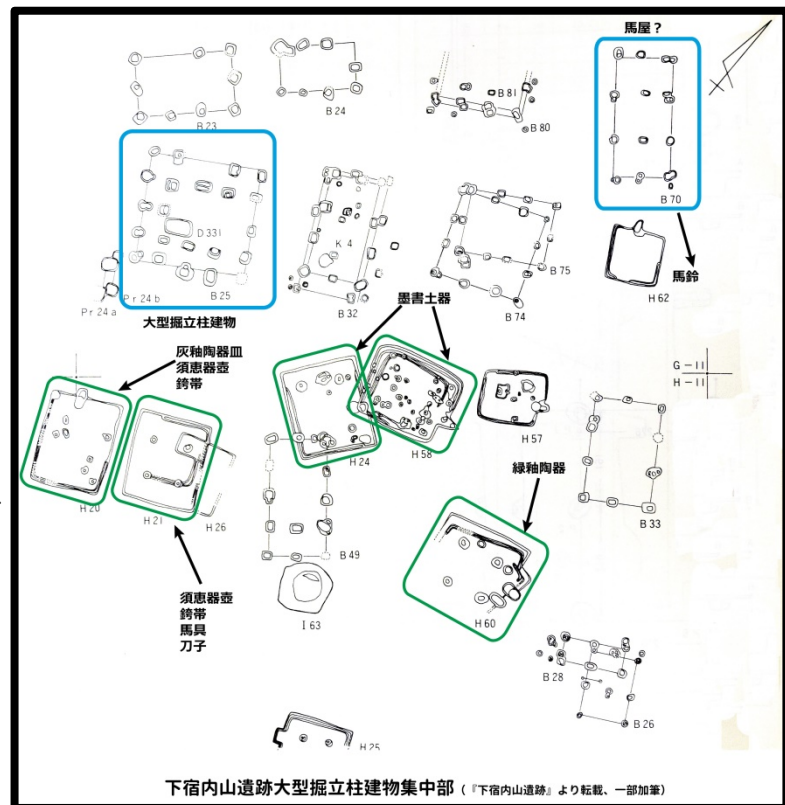
# 清瀬の古代

奈良・平安時代の柳瀬川は、入間郡と多磨郡の郡境を流れていました。<sup>やなせ</sup>この時期の清瀬市周辺には、現在の秋津駅の西方約2.6 km離れた場所に当時の官道の1つである東山道が通っていたと推定されており、市域における柳瀬川流域は、郡境でありかつ東山道が隣接していた重要な地域であったと考えられています。

このことは、柳瀬川・空堀川流域の遺跡である下宿内山遺跡・野塩遺跡群から一般的な集落に認められない大型掘立柱建物や、<sup>りよくゆうとうき</sup>緑釉陶器や金属製品が住居内から見つかっていることから裏付けられています。

## 下宿内山遺跡

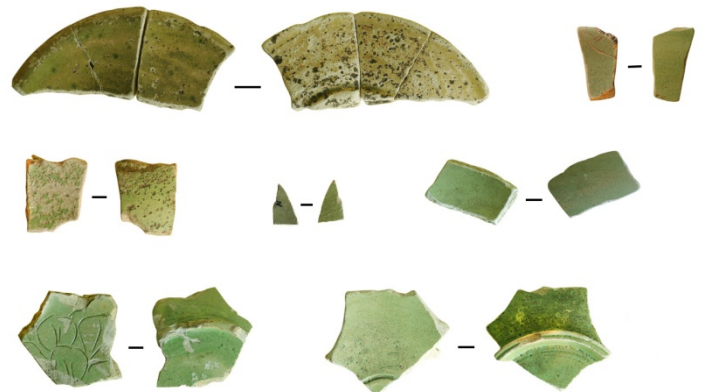
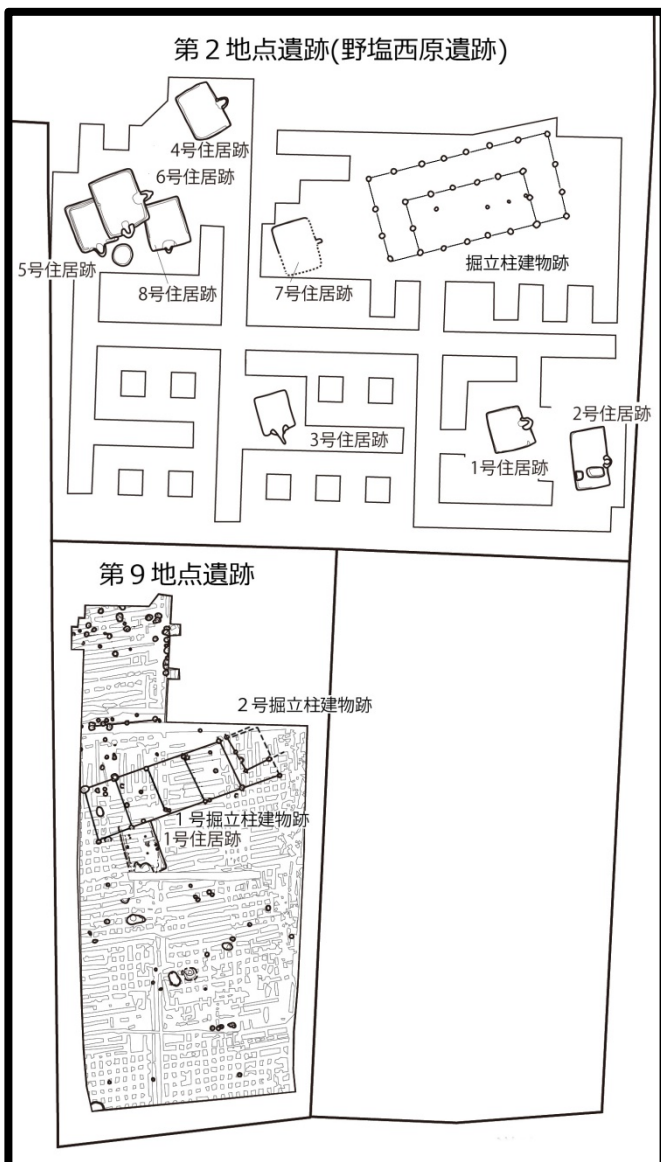
下宿内山遺跡は、現在の清瀬水再生センター（下宿3丁目）一帯に所在する遺跡です。ここから約50 m四方の範囲内に9世紀後半～10世紀にかけて4間×4間の掘立柱建物を中心に、周辺部に掘立柱建物や竪穴式住居が作られていました。ここからは、<sup>かいゆう</sup>灰釉陶器、<sup>かくたい</sup>緑釉陶器、金属製の馬具、そして石製・金属製の<sup>かくたい</sup>革帯具などのような一般集落と様相の異なる遺物が出土しています。



## 野塩遺跡群

野塩遺跡群は、秋津駅北側に広がる遺跡群です。第1～9地点の発掘調査で、平安時代を主体とする竪穴式住居24基、掘立柱建物6軒が検出されています。その内、野塩西原遺跡として昭和50年（1975）に調査が行われた第2地点からは三面庇7間×3間の構造をもつ大型掘立柱建物が見つかり注目を集めました。出土遺物の大半は土師器・須恵器ですが、中には緑釉陶器、灰釉陶器、糸を紡ぐための紡錘車、布目瓦が認められ、下宿内山遺跡と同様に一般集落と様相が異なっています。

3面庇の掘立柱建物の存在や特殊な遺物から、『続日本後紀』に記載されている入間・多磨郡の境界付近に設置された悲田処との関連性が指摘されています。



### 野塩遺跡群出土緑釉陶器（一部）

野塩遺跡群からは、表面採集を含め計18点の緑釉陶器が出土しています。緑釉陶器は、緑色の釉薬が表面に施された陶器です。緑釉陶器が出土する事は珍しく、さらに中には唾壺の口縁部や、陰刻花文の皿など関東では出土事例が少ない遺物が見つかっており、野塩遺跡群が重要な施設であったことを裏付けています。